

「コンコード町訪問を終えて」

町民代表 篠田 辰則

早いもので、見るものすべてが新鮮だった日々から早2ヶ月が経ちました。あの日本食がたまらなく恋しかった日々もすっかり忘れ、今は、すっかり馴染みの七飯の生活に戻り、日々仕事とその後のビールを楽しみにする毎日です。

さて、本レポートでは、私がコンコード及びボストンに行き、見て、聞いて、体験した事を、時系列ではなく、事柄別に分け、コンコード及びボストン(アメリカ)と七飯町(日本)を比較するという視点で書かせていただきたい。なぜなら、コンコードで過ごすにあたり、私が一番強く感じたのは日本との「違い」であり、事柄別に記述した方が、その「違い」をうまく説明できると考えたからです。

<食事について>

この項目については、アメリカの方の味覚と日本人の味覚が当然のように異なるという事を予めお伝えし、その上で一日本人が感じた率直な感想であり、決して批判ではない事をご理解いただき読んでいただきたい。

まず、アメリカの食事は、日本と同じように3食、朝食、昼食、夕食で、時間帯も日本とほぼ同じです。朝食は、日本では、ご飯とみそ汁におかずという、いわゆる「ごはん食」の家庭も多いでしょうが、アメリカはほぼパン食。パンにジャムやバター、それに卵料理等のおかず1品と飲み物が一般的かと思えます。私のホームステイ先では、この他、オートミール(乾燥麦に牛乳を入れて食べるアングロアメリカの伝統的な料理。日本で言うとシリアル(牛乳掛けのような食べ物)を出してくれた日もありました。昼食は、私が見た限り、日本よりも軽めの食事です。サンドウィッチと飲み物と他1品くらいで、昼食を割としっかり食べる日本人としては物足りない感じでした。夕食、これは、日本よりもボリュームのある感じでとります。正直なところ、研修中の夕食の時間帯は歓迎会などいわゆるパーティーの日が多かったので、通常の夕食はあまり見られませんでした。いずれにせよ、夕食に重点を置いている感じなのと、現地は日本よりもパーティーが多いし、パーティー好きといった感じでした。

そして、重要な味ですが、ここについては臆目なしで「日本の勝ちかな。」というのが、一日本人としての素直で正直な感想です。もちろん、日本の味になれているので、アメリカの方向けの味付けに違和感があるのは当然といえば当然ですが、それを抜きにしても日本の方が味付けは繊細

で美味だというのが私の見解です。そして、アメリカの食事は良く言うとシンプルで素材の味を生かした状態。悪く言うと、日本と比べると味付けが少し大雑把。といった感じ。ある日のボストン市内の見学日、見学後ディナーにボストン市内の中華料理店に入ったのですが、日本人としてはお世辞にも美味しいとは言えない味でした。チャーハンは、固い部分や味の付いていない部分があり、焼きそばも同様の状態。日本国内ならおそらくクレームになるだろう状態でした。しかし、聞くとこの料理店はボストン市内で人気の中華料理店との話。ここにアメリカと日本の違いを感じました。日本では、料理店は質や繊細さが求められ、客も味にうるさいし細かい。しかし、アメリカでは、もちろん質や繊細さも求められるでしょうが、それよりも量や見た目（外食店に限る。）を重視する傾向があるのかなと感じました。

ただし、家庭料理については、いつも美味しくいただく事ができました。アメリカの家庭料理について元来日本人がイメージするのは、肉類中心でボリュームもかなり多めというイメージだと思いますが、それは今のアメリカには当てはまらず、家庭料理ではどちらかというとヘルシー志向が強



ある日の団欒♪

くなっているのを感じました。アメリカでも近年、肥満やそれらに付随する生活習慣病が問題視されてきたようで、それと共に食生活も変遷してきているとお話でした。確かに、年配の方は、お腹の大きい方も多かったのですが、若人は、スマートな方が多かった気が…笑。また、感心させられたのが、料理は夫婦で分担して出来る人がやるという事です。日本に今でも多少残る文化のように、男は厨房に立たないという風習は全く感じられない。むしろ男性が進んで厨房に立つといった感じでした。そして、アメリカでは、どの家庭も日本以上に男性よりも女性が強くパワフルなものも印象的でした。

<車について>

車については、驚くほど日本車が多いです。特にコンコードは多いようで、全体の半分くらいは日本車な感じ。他の4割はGMなどのアメリカ車、残りの1割が他の海外製といった感じです。聞くと、「やはり日本車は安全だから、みんな乗るのだ。」と、私のホームステイ先のジョンさんとホリーさんがおっしゃってました。そして、二人の車もそれぞれプリウスとスバルのRVです♪（安全性が売りの日本車ですが、話題のタカタの事もあり、今後どうなるか。信頼を裏切るような形となり、一日本人として申

し訳ない限りです。)

一点少し気になったのが、アメリカの方が乗る車の状態です。だいたいの車にぶつかった際に出来たであろう様々な凹みやキズがある。(笑)アメリカの方は、こういった凹みやキズはあまり気にならないようです。日本だと、だいたいの方がぶつけて凹みやキズを作ってしまった際は、恥ずかしい、みったくない。とすぐに修理に出すのですが、アメリカの方はそういう事はあまり気にされないようです。そういった意味では、アメリカの方は、おおらかで寛大。小さな事は気にしない。といった面があるのかなと感じました。

こちら辺は、小さい事を気にし過ぎて細かい日本人は学ぶべきところなのかなとも感じました。もちろん、日本の細かさは物作りの上では、世界に類を見ない技術と商品を生んだのでしょうが。

<仕事について>

これについては、私の偏見もありますが、アメリカの方は私が思っていたよりもずっと生真面目な仕事ぶりだ。というのが率直な感想です。あくまで私のイメージで先入観もあると思いますが、私が研修に行くまでのアメリカの方の働き方のイメージは、俗な言い方になりますが、もう少し緩く、軽いイメージで、おしゃべりしながらゆったり仕事をし、休日も多め。というのがイメージでしたが、それは全く違って、もちろん、ゆったり仕事をすることもあったり、休日も日本よりは多いのでしょうが、その分アメリカの方はオンとオフの使い分けがしっかりしていて、仕事の時はしっかり集中。その分、休みの時はしっかり休む。というのが徹底されている。というのが、私が実際に見て、受けた印象です。仕事についても、只々集中ではなく、時には、同僚とおしゃべりしたり、お客さんが来れば、その方との会話も楽しみながらといった感じで、「車について」でも述べたように、あまり小さい事は気にせず、おおらかな空気の中で、それでいてTPOをわきまえながらといった感じが見受けられました。

日本人はどちらかというと、仕事となれば仕事中心になってしまう傾向があって、仕事でも只々仕事、それも集中出来ているのかということそうでもない。結果、効率が悪い。というのが傾向として割と多く見られるように思うので、こういったアメリカの方のオンとオフの切り替えとおおらかさ・寛容さを見習うべきだと強く感じました。

そして、私のホームステイ先のジョンさんとホリーさんは、中でも凄くお忙しそうで、日にもよりますが、朝早くから、夜遅くまで働いているようです。その中でも、オンとオフの切り替えをしっかりし、日々の生活を楽しまれておりました。お二人の様子を見て、仕事に対する真摯さと姿勢の素晴らしさに感銘を受け、私も帰国後、お二人の姿勢を参考に私自身の

仕事の仕方、時間の使い方の見直しの参考にさせていただきました。その意味でも私の今研修とジョンさんホリーさん宅にホームステイさせていただいたことは、私の人生において大きな意味を持ちました。

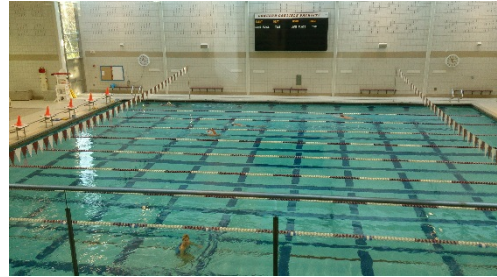
<生活・街づくり・コミュニティーについて>

アメリカの方の日常の生活で大きく違うところは、まず朝が日本より早い事、そしてその分、退勤の時間も早い事です。これは、サマータイムとそうでない時とで多少の違いはありますが、だいたい日本より1時間程早く動いていて、学校も7時頃の登校です。その分、早く自宅に帰れるので、家族との時間や私的な時間を多く取れるようになっているようです。時間の使い方としてはとても効率が良く、私も参考にしたいと思った点です。

また、この自宅での時間や私的な時間が多く取れる、取るようにしている。という事とも関連している事なのかもしれませんが、アメリカでは、自宅の建物の整備、多少の改築、車の整備、これらは可能な限り自分たちでやるというのも特徴的でした。私の仕事との関連から、日本でいう「ホームマック」のような大型のホームセンターに連れて行っていただいた日があったのですが、そこには、ジャグジー付のバスタブが売られていたり、ガラス扉のおしゃれなシャワールームが丸まんま売られていたり、日本ではリフォーム関係の業者しか取り扱わないような大型の材料・部材まで多く売られていました。自宅のお風呂のバスタブを自分で取り替えたり、シャワールームを自分で丸まんま取り替えちゃうなんて日本では考えられないと思いますが、アメリカでは状況にもよりますが、そういったことも少なくないようです。これは、日本とアメリカの建物の耐久性や価値観の違いにも理由があるようで、アメリカでは古くから既存の住宅を出来るだけ活かすというのが一般的なようで、既存の住宅をその時代時代に合った形に、素材や建材を変更し、リフォームして長く使っていくというのが主流で、その為、家を購入となると既存の中古住宅を購入し、それを自分たちの好みにリフォームして使うというのが多いようです。よって、建物そのものの耐久性がもともと高く作られているようで、これは、物を無駄にしないエコな考え方が根底にあるようです。また、アメリカは日本に比べ地震が少ないので、建物が古くなっても壊れにくいという事にも理由があるようです。ただし、近年は、アメリカでも新築の住宅も増えているようです。逆に、日本では、地震に耐えられる技術が開発され、高耐久の建物が建てられるようになったので、リフォーム需要が高まっています。こういった所はアメリカの文化も参考にされた流れかと思いました。

そして、アメリカ及びコンコードの文化で強く感銘を受けたのは、コミュニティーとそれを中心とした街づくりです。日本では、私的時間が少ないのもある為か、他人と他人がコミュニケーションを取る機会や場があま

りないように思いますが、アメリカでは教会だったり、学校だったり、様々な行事やパーティーだったりと多くの人に会う機会があり、それを中心とした街づくりが出来ているように思いました。その一つがコンコード・カーライル高校のスポーツジムで、ここは、高校の1施設なのですが、日本の民間のスポーツジムよりも立派ではと思うようなプールを有し、トレーニングルームなども立派なものでした。そして、何より特徴的なのは、ここが一般にも開放されており、朝の5時から使えるという点です。コンコードの方は、ここで仕事前の早朝からトレーニングをし、仕事に向かう方も多いようです。その為、



CCHSプール

多くの町民がここに集まり、自然に交流が図られますし、自然に仲間が出来ます。そして、高校の1施設だということもあり、学生との交流も少なからず図られますし、町民が自分たちの街の学校として強く意識出来るようなシステムが自然と出来上がっています。そして、そこに人の流れが発生し、当然お金の流れも発生し、意見交換の流れも発生し、ついでに、学生を見守る目にも繋がるといった様々な良い効果が副次的に発生し、結果、街の活性化に繋がるといった良い循環が出来上がっていました。この街の活性化は、ここで説明したほど単純に出来上がっているわけではないでしょうが、少なからずこの学校とそれに関連したコミュニティーの繋がりが強く影響している事は間違いないのではないかと思います。欧州のある国で、プロフットボールチームを中心にコミュニティーが形成されているという街がいくつかありますが、それと似たシステムと感じました。そのフットボールチームでは、もちろん、中心となるプロフットボールチームを最上階に、その下にいくつかの年代、カテゴリーのそれぞれのチームがあります。そして、その他にフットボールに限らず、多くの人(子供から高齢者、障害を持つ方まで)が参加できる多種多様なスポーツチームや文化クラブ、レクリエーションが存在し、それらがプロフットボールチームの元で整備された多様で潤沢な設備をプロフットボールチームの管理と運営の元に使えらるというシステムです。必然、それらの街の人々はそのトップであるプロチームの根強いサポーター



CCHSサッカー部とサッカーもしました

となり、当然試合も見に行きますので、安定した入場料収入があがり、街としても結束力の強いコミュニティが形成され良い効果が発生するという訳です。このシステムの縮小版がコンコードのシステムにはあるように思います。プロフットボールチームの役割を町や学校が担っているという訳です。日本や七飯にも各スポーツクラブや文化的なクラブは存在しますが、それぞれ独立した組織であり、バラバラの場所で行われ、運営体もバラバラです。その為、各組織との繋がりがほとんどありませんし、自分たちの場、自分たちの街と強く意識できるものがなく、必然、町に対しての関心や責任も薄れる傾向にあると思います。七飯町にも、コンコードのように多くの年代が集まる場、システムがあり、多くの組織が繋がれる場があれば、七飯町自体への関心も高まり、結束力ももっと高まるのではと感じました。その意味では、七飯町に今現在最も不足しているのは、多くの町民が集まり有意義に使えるスポーツ施設かと思います。現在、町にはスポーツセンターがありますが、老朽化が進んでいますし、現在の町の人口から考えても十分な施設と広さを有しているとは言えないでしょう。この場を借りて、スポーツ施設やそれに付随するプールの可能な限り早期の整備を一町民の意見として、関係者の皆様をお願い致します。

<まとめ>

今研修では、この他にも様々な経験をさせていただき、様々な「違い」を感じ取ることが出来ました。それも全て、私達を暖かく受け入れてくださったCCNNのメンバーはじめコンコードの皆様、および、綿密な準備と調整を進めてくださった、七飯町長はじめ、七飯町の関係者の皆様のおかげと心から感謝しております。今研修で得た経験は、私の人生を変える大きな経験となった事は言うまでもありません。このような経験をさせていただいた関係者の皆様に報いるためにも、この経験を自らの能力向上と仕事の発展に生かすと共に、以て、七飯町の為、そして七飯町とコンコードのより強い友好関係の為、尽力して参りたいと強く決意しました。

最後になりますが、ホストファミリーとして私を受け入れてくださったジョンさんホリーさんに何より心から感謝し、お二人と過ごした日々が私にとってかけがえのない時間になった事をお二人にお伝えし、終わりの挨拶とさせていただきます。また、お二人と、他何名かのCCNNのメンバーの皆様が来春、来町されるとのお話でしたので、その日を楽しみに、その時は、今度は私が出来る限りのおもてなしで迎えさせていただきたいと思います。